

2026 年度学校推薦型選抜試験

## 小論文

### 注意事項

- 1 小論文の問題冊子には、課題と下書き用紙がある。白紙・空白の部分は下書きに使用してよい。
- 2 別に解答用紙 1 枚があり、解答はすべて解答用紙の指定欄に記入すること。指定欄以外への記入はすべて無効となる。
- 3 **解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号が誤っている場合や無記入の場合は、小論文の試験が無効となる。**
- 4 試験終了時には、問題冊子の上に解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。
- 5 問題冊子は持ち帰ること。





## 課題

以下の文を読み、問に答えなさい。

ハンバーガーとフライドポテトが載ったトレーを手に、昼時の店内を慎重な足取りで進む。商品を注文通りに客のテーブルへと届けるのが仕事だ。81歳になる店員のAさんは「お待たせしました」と商品を手渡し、笑顔を見せた。

マクドナルドB店で働き始めたのは、2年前に夫を亡くし、寂しい気持ちを紛らわせるためだった。若者や外国人との交流がある職場は、心を活力で満たしてくれる。商品を運ぶ業務に専念しており、週4日、各日3～4時間の勤務をこなす。Aさんは「お客さんと接するのが楽しい。今が青春」と声を弾ませる。

日本マクドナルドでは、65歳以上の店員が2025年2月時点で8699人に上る。10年前と比べて4倍に増え、全体の4%占める。最高齢は富山県の98歳だ。人事本部のCさんは「カウンター業務や<sup>①</sup>配膳などを分業し、誰もが働きやすい環境を整えている」と話す。

働く高齢者が増えている。総務省によると、65歳以上の<sup>②</sup>就業者は24年時点で930万人に増え、過去最多を更新した。就業率は25%で、高齢者の4人に1人が働いている。就業者全体で見ると、およそ7人に1人が高齢者だ。

背景にあるのは、国内で深刻化する人手不足だ。

(中略)

国内で社員1万8000人を抱えるファスナー製造大手のYKKグループは、定年制を廃止した企業の一つだ。専門技術の<sup>③</sup>継承が課題となっており、人事担当者は「ベテランが残ってくれるメリットは大きい」と話す。家電量販大手ノジマは、アルバイトの上限年齢を<sup>④</sup>撤廃した。家電メーカーを退職した人たちがセカンドライフを築く場にもなっている。

人口減を背景に、日本の労働市場では、働き手を確保することが少しずつ難しくなっている。独立行政法人労働政策研究・研修機構の予測では、高齢者らの労働参加が順調に進んだとしても、日本の就業者数は30年に24年比1%増の6858万人でピークに達し、その後は減少に転じる。

働き手が減り続ける日本の未来はどうなるのか。リクルートワークス研究所のDさんは「人工知能(AI)やロボットの活用で生産性を高めていけば、日本経済は維持できる。男性の長時間労働に頼っていた昭和が終わり、令和の時代は女性も高齢者も、自分のペースで働きたいだけ働く世の中になる」と指摘する。

(出典：読売新聞2025年5月1日(木)より改変)

問1 下線①～④の読み方を答えなさい。

問2 2024年度の65歳以上の人口は何人でしょうか。

問3 この文に対するあなたの考えを400字以内で述べなさい。







